

明るく夢のある未来社会 の共創に挑戦しよう！

2023.5.20

テクノ未来塾

理事長 阿部 惇

テクノ未来塾とは

テクノ未来塾のパーパス（存在意義）

テクノ未来塾は、
未来の可能性を信じ、
ステークホルダーと共に
明るく夢のある未来社会の共創に
挑戦し続けます。

テクノ未来塾のバリュー（行動指針）

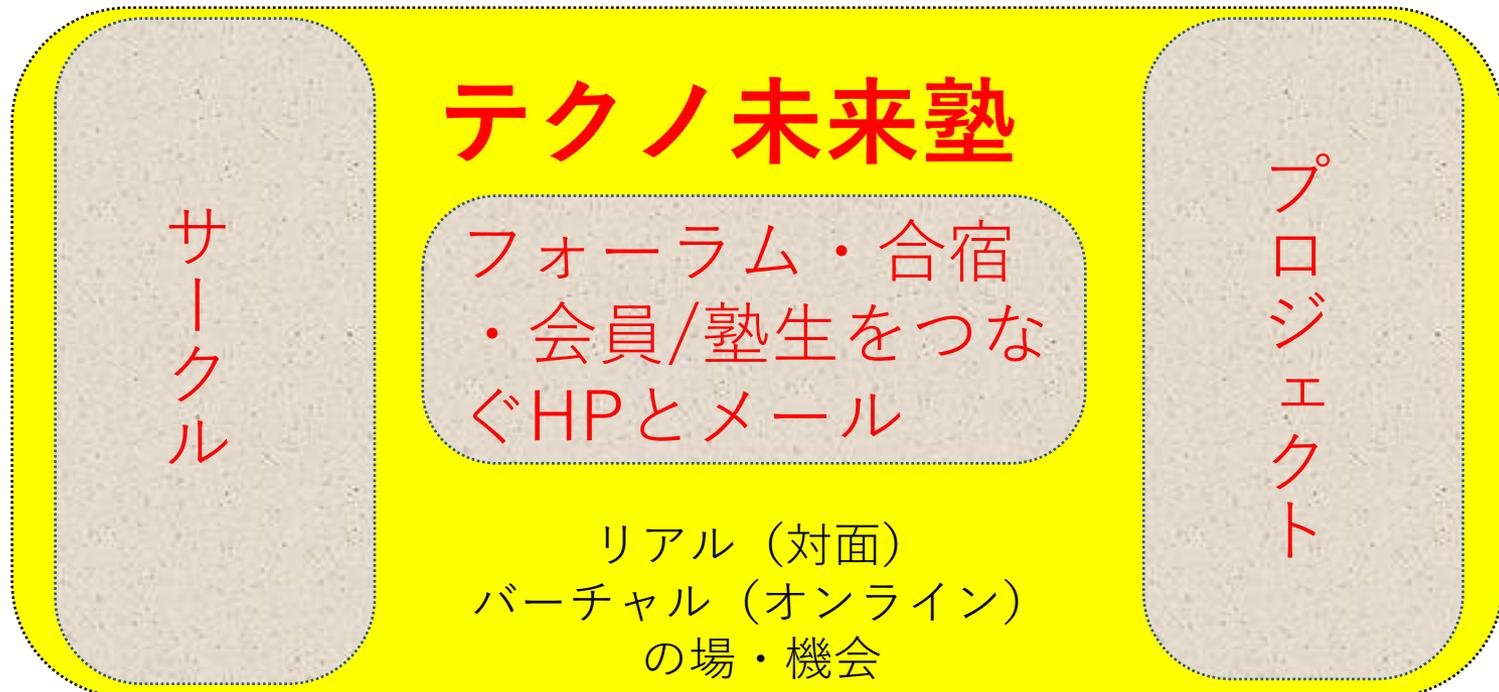
1. 多様なバックグラウンドを持った会員・塾生で構成されるテクノ未来塾の特徴を活かし、会員・塾生は共に学び共に成長するために相互啓発に努める。
2. 活発な議論を通じて学び合い新しい知の創出に努める。
3. テクノ未来塾の場を活かした活動により得られた成果を社会実装することに努める。

会員・塾生による知のコミュニティ

多様な知による新しい知の創出

社会

社会実装



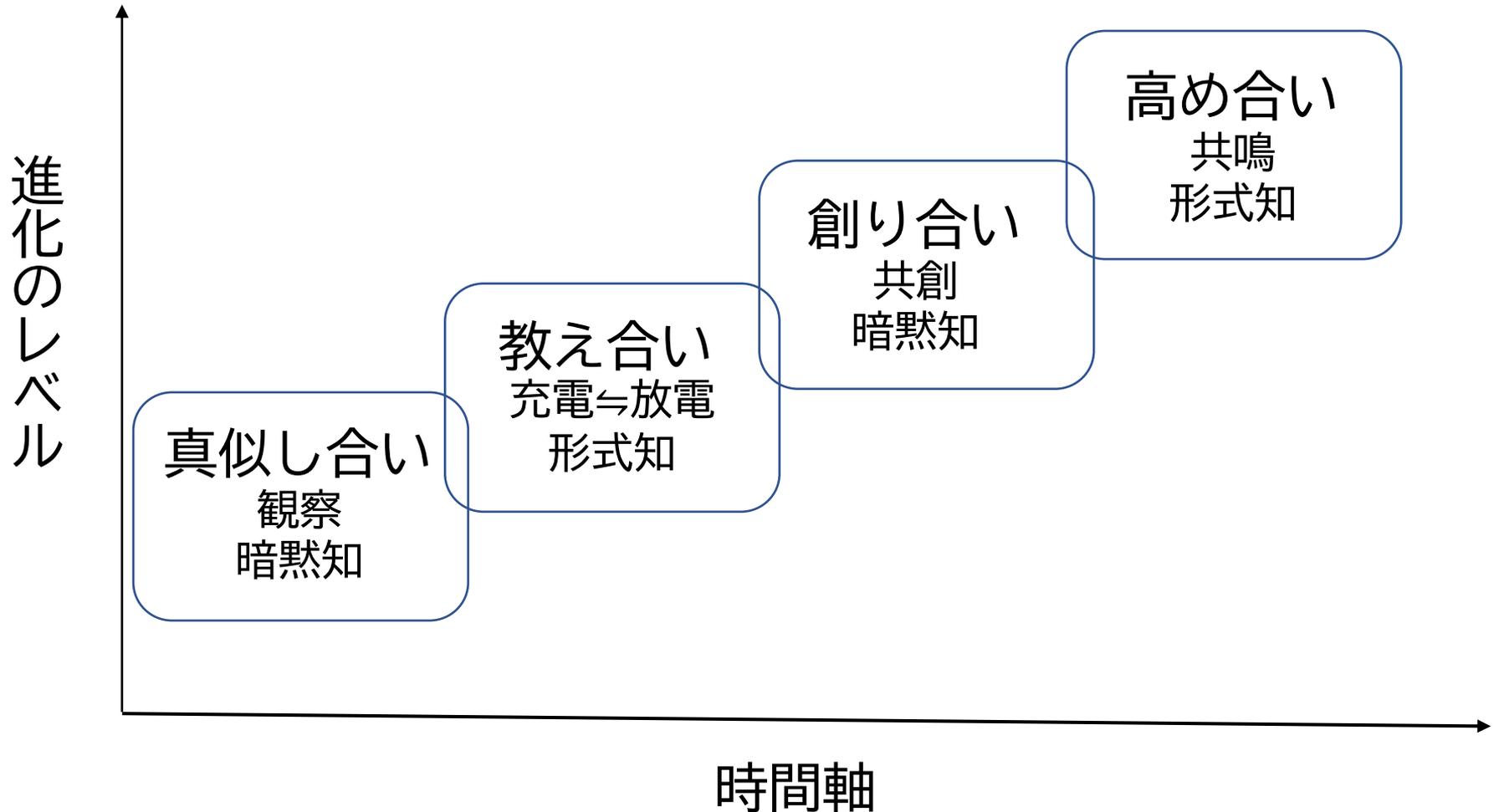
議論を通じて共に学び 共に成長する オープンイノベーションの場・機会

幅広い業界の専門家の集団（含む海外在住）

建設、繊維、化学、鉄鋼・非鉄、機械、電機、
通信、輸送機械 等々 （約100名）

学びのパターンとその進化

(小林祐児、2023.3.28) からヒントを得て作成



心掛けていること

自ら考える習慣を身に付ける
(そのために常に問いを持つ)

スムーズに開けることができる
知の引出しを複数持つ

- 自分で考えることが重要になる。
- それには仲間との議論が重要

(伊藤穰一氏、2017.8.22)

- 遠いフィールドで得た気づきが豊かな発想を促し、生産性を高めるトリガーとなりうる。
- 成長意欲を持って学び続けることこそ、いつの時代にあっても人間にとって最も大切なこと。

(出口治明氏、2017.8.21)

メリット

フォーラム・プロジェクト・サークル・
合宿等に参加することで

新たな視点・気づきを得る

相互啓発する

見識・洞察力を高める

正解のない時代・社会では
洞察して仮説検証の試行錯誤を行うことが必須

- ・ 洞察する力は、先人の本を読むこと、先人の知恵に学ぶだけではなく、
- ・ 激しい変化の中・正解の分からない状況で、自ら問いを持ち、仲間と共に高速で試行錯誤を繰り返すことで磨き上げることができる。

テクノ未来塾の 組織としての特長

幅広い人々から多様な情報が効率的に流れる緩やかなつながりからなるネットワークは、全体的にムダが少なく効率的で、全体として情報波及の効率が高くなる。

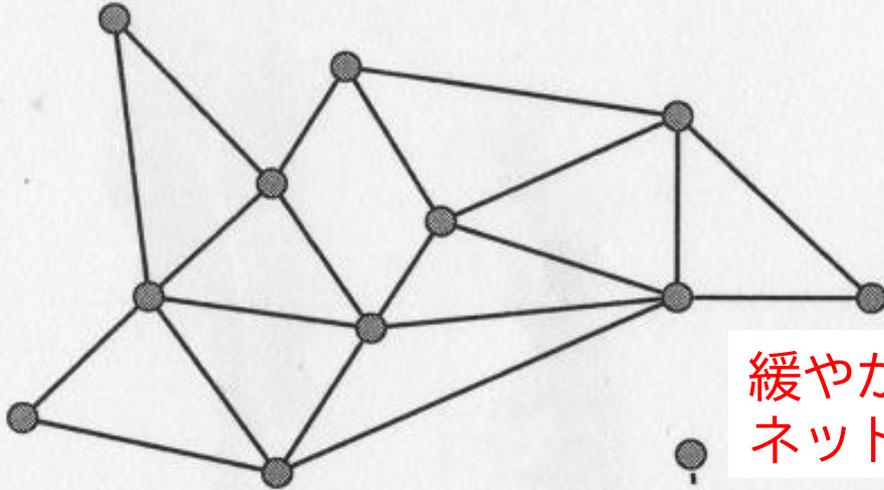
(入山章栄氏、2016.1.13)

テクノ未来塾の特徴である緩やかなネットワークはリアルおよびオンラインの場において、アドホックに簡単に作れるだけでなく、

フォーラム・プロジェクト・サークル・合宿等の各種活動の場・機会において、テクノ未来塾の財産〔多様な見識・知識・経験を持つ集団〕を有機的に組み合わせることができる。

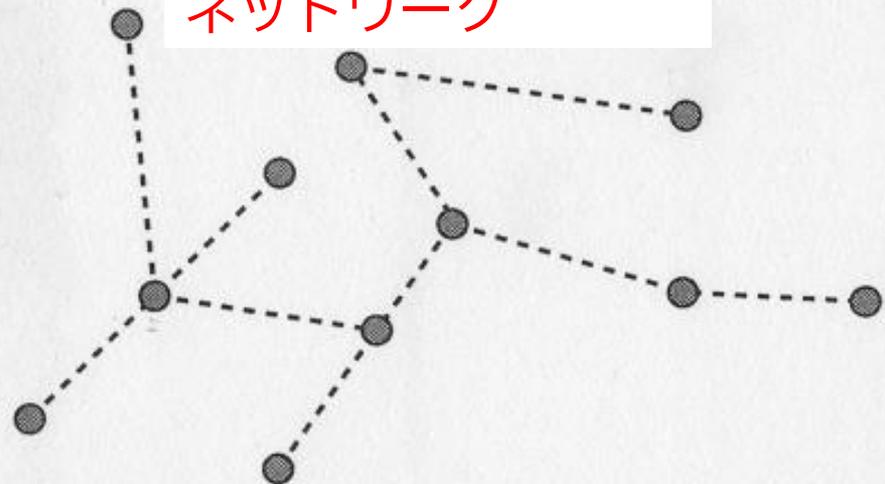
「緩やかなつながり」こそが 新しい知を生み出す根源

強い結びつきのネットワーク



←会社・組織
(強いつながり)

緩やかな結びつきの
ネットワーク



テクノ未来塾 ⇒
(緩やかなつながり)

(入山章栄、2016.1.13) を
参考にに加筆作成

テクノ未来塾での活動の指針

(阿部 惇、2019.5.18)

- パッシブ → アクティブ
- 受け身（充電） → 相互学習・外部への
発信・社会実装（放電）
- フィードバック → フィードフォワード
- Take → Give & Give

- 自己充実 → 社会実装

テクノ未来塾における活動のありたい姿

参加者が自らの活動に喜びを感じ、
去る者時には
参加して幸せだったと感じていただける
共創の場・機会でありたい

(奥多摩園) 合宿ゼミ (2023.5.20～21開催)
参加者へのメッセージ

過去の延長線で現在を見、現在の延長線から未来を
考える、というオーソドックスな発想ではなく、
現在の課題について

⇒過去の事から学び

⇒未来の姿を洞察して見よう。

（事例：【増補・決定版】江戸時代のハイテク・イノベーター列伝」

―「近代日本」を創った55人のエンジニアたち― （出版社：言視舎）

ポストコロナ時代における
持続可能な
経済・社会の姿について
考えて見よう。

明るい未来を

自ら構想できなければ、

明るい未来はやってこない。

例えば、COVID-19による厳しい社会環境を、
ポストコロナ社会・世界ををより良い方向に
向かわせるための機会とする。

少子高齢化社会がやってくる

新型コロナのパンデミックがあっても
大きなトレンドは変わらない。

事例：小宮山先生（三菱総合研究所理事長）
のご提案（プラチナ社会）

今の豊かさを保ちつつ、
人の自己実現が可能となる社会が
理想である。

（小宮山宏氏、2020.11.28）

事例：川島先生（川島隆太・東北大学加齢医学研究所
センター長）から受けた示唆

高齢者が目指すべきはスマート・エイジング

世阿弥の言葉

- ・ 若さゆえの美しさである「時分の花」と
- ・ 内側から咲かせる「まことの花」

とを対比させ

アンチエイジング：失われた「時分の花」に縋り付く生き方

スマート・エイジング：「まことの花」を得る努力をする生き方

スマート・エイジングとは、経年変化に賢く対処し、個人・社会が知的に成熟すること

まだ働きたいと思っている、クリエイティビティが絶頂期を迎えている人を無理に引退させるには悲劇です。

（ジャレド・ダイヤモンド氏、2020.7.23）

高齢者にとっての車の運転の是非

（島田浩之、2016.6.8）

- 65歳以上の3,500人に対し、2年間追跡調査した結果、
- 車の運転継続の人の方が、止めた人に比べ要支援・介が必要になる割合が1/8であることが明らかになった。
- 一方、交通死亡事故が平成27年現在10年前に比べて4割減少したにも関わらず、65歳以上では減っておらず、
- 高齢者の自立のためには車の運転が好ましいが、一方で安全運転、という課題がクローズアップされた。

人口統計予測ではますます高齢者が増える。

それに伴って交通事故の発生確率も増大する。

- しかしながら、高齢者による車の運転は危険
ということで家族が免許証を取り上げると、
- 引きこもり老人が増え、認知症になる老人が多くなる。
- 結果として国の介護医療費が増大する。

それではどうしたらいいのか？

たとえば、

- 安全を確保するための自動運転機能を導入
- 無人タクシーのシステムを構築

若者は どういう社会・生活を望んでいる のであろうか

(事例)

「エンジニアという職業を語ろう」の重要テーマ

高齢化が進むほど、優秀な若者をどんどん登用して能力を
発揮できる環境をつくっていかなければ、社会から活力が
失われていく。

(河合雅司氏、2020.9.29)

理想を掲げた現実主義者たれ！

阿部 惇

研究開発リーダー（2008年）より

ベンチマーキング
(歴史的事実・実践事例からのヒント)

見える化

実態把握・課題抽出

課題と向き合う

戦略・方策



実践

共有化

あるべき姿 / ありたい姿

考え方・やり方を変える

たとえば、

- ① 解決すべき社会的課題
- ② 具現化したい商品・サービス・システム等々

(1) 重要なのは単純な将来予測ではなく、変化を察知（洞察）して対応することである。変化の予兆をキャッチし、変化が顕在化する前に自分の直感を信じて大胆な決断をでき
人材がこれから求められるビジネス感度の高い人材である。

(北沢宏之、2015.3.11)

(2) 人間中心のイノベーションを考える、ということである。人々の生活や価値観を深く洞察し、新製品やサービス、ビジネスモデル、社会システムなどを生み出していくこと
である。人々のライフスタイルや価値観の変化を生み出して
いくこと、と言い換えることもできる。

(堀井秀之、2009.8.8)

ForecastingとBack castingの組み合わせ

(会原一幸、2023.5.8) からヒントを得て作成

